

佳作

素直になれない

福岡県 筑紫女学園中学校三年 田上 明香里

「あんたまだ宿題してないやろ。」

夏休みに入ったすぐ、私は「宿題」という単語より「遊び」という単語が頭に浮かんでいた。夏休みの宿題の予定をたて、毎日コツコツ取り組んでいたが、ちょうどタイミングが悪く母と居る時にゲームをしているのを見られる事が多かったのだ。もちろん、母は私がゲームをしている所を多く見たので「夏休みの宿題を全然してない」と勘違いをしていた。

ある日、夜にまたゲームをしていると母から注意された。最初は少し言い返して素直に勉強を始めるつもりだったが、なかなか素直になれず、最後は大げんかになってしまった。

自分の部屋にこもって、「別にあんなに怒らなくてもいいじゃん」と思っていた。次の日、朝起きて

お姉ちゃんから

「今日からお母さん出張でしばらく帰ってこれんらしい。あんたお母さんとケンカしたやろ。伝えてって言われた。帰ってきたらちゃんと謝りなさいよ。」

と言われた。

「別に私が悪いわけじゃないし。」

とお姉ちゃんに言い返して学校に行った。

授業中、昨日お母さんに言った言葉が頭から離れなかった。最初は、自分は悪くない。だからあれぐらい言って大丈夫。でも少し言い過ぎたかな……。と同じ事をくり返し考えていた。

家に帰り、夕食も風呂も済ませた後、お母さんから電話があった。

「みんな御飯食べた？風呂は？」

とみんなの事を心配している電話だった。私は謝らないといけない。そう思ったが、なんだか「ごめん」の一言を言うのが恥ずかしくて、くやしくて、お母さんに

「みんな入ったよ。」

と素っ気無く答え、ガチャッと電話を切ってしまった。その様子をお姉ちゃんに見られていて、

「まだ怒ってたの？はやく仲直りしたら？」

と少しあきれぎみに言われてしまった。

分かってる。私だって謝りたいよ。でも……。

何日かした日、お母さんが出張から帰ってきた。

言わないと。その気持ち私を満たしていた。

「お帰り。お仕事おつかれ様。洗濯物たたむの手伝うよ。」

自分の口から思いがけない言葉が出てきた。

お母さんは笑って

「ありがとう。」

と言った。怒ってないのだろうか。そう思ったら、自分がずっと怒ってたことがあほらしく、ばかりしくなった。そして

「ごめんなさい。」

と言った。あんなにきつい言葉を使ったのにお母さんは帰ったら怒っていなかった。そんな事より私の事を心配してくれていた。私も母のような人になりたい。これから生活していく上で、そのような見習わないといけない事はたくさんあるだろう。それをたくさん見て、私も成長していきたい。